

主ご自身が、いのちに意味をお与えになる みことばであり、わたしたちの道を明るく照らす光なのです。「その光は、まことの光で」—福音はわたしたちに教えます—「世に来てすべての人を照らすのである」(ヨハネ1・9)



## 主の平和

キリストの御降誕を待ち望む季節（待降節）が今年は11月29日から始まりました。そして、教会の典礼暦年もA年からB年に変わり全世界の教会と共に新しい信仰生活を歩み始めました。私たちは今、冬の寒さの中、またコロナが終息していない中、世界の様々な混乱や不安と直面しながら生きています。しかし、他者を思いやる心のやさしさや暖かい信仰によって、神の限りない愛に支えられて、混乱や不安を乗り越えることが出来ると思います。何故ならば、神様は眠っているのではなく、私達一人ひとりを見守ってくださるからです。これらすべての事を通じて神に感謝を申し上げます。

雅歌にこう書かれています。「恋しい人の声が聞こえます。山を越え、丘を跳んでやって来ます。…略…ごらんなさい、もう家の外に立って、窓からうかがい、格子の外からのぞいています」(雅歌2:8-9) 主はもうすぐそばまで来ています。私たちの愛のまなざしで見えています。私達の方も愛をもって迎えて欲しいと主は望んでおられます。

街を歩いていますと、すでに、スーパーやコンビニなど街中でクリスマスの飾りが飾ってあります。一般の人々にとって、クリスマスは友達や家族のための時間が増え、一緒に過ごすことが出来る季節だということも悪いことではありません。しかし、キリスト者の私達にとってクリスマスはどういうことかというと、クリスマスはインマヌエル（神が私達人間のところにやって来て、私たちと一緒に生きる）という事です。

残念ながら、一部の人間が人間同士で殺し合っています。世界を動かす様々な考え方や政治決定がそれに関わっています。そのために子供やあらゆる弱者、平和のうちに生活しようと思っている一般市民が犠牲になっています。命の価値を恵みとして受け取り、大切にしなければいけない感覚がプライドの雲に閉ざされてしまい、神様から与えられている命の尊厳を、人間は見失いつつあります。神様の存在を知らずに、すなわち、人間自身のあり方の源である神の臨在を見失うこの世界の病気はコロナやインフルエンザよりひどい病気ではないでしょうか。

さて、今年のクリスマスメッセージを書くときに、教会でのミサに預かれない、御自宅にいっらしやる高齢の方々、大学に通っている方々や社会人となって仕事を頑張っている若い方々、教会学校の子供たち、すべての信者の方々一人ひとりを思い浮かべながら、マリア様のエリザベト訪問の事について思いめぐらしています。エリザベトの所にマリア様がやってきました。雅歌に書いてあるように「山を越え、丘を跳んでやってきた」、そんなイメージで描かれています。ガリラヤからエルサレムは相当な距離です。その距離をはずむような心で、マリア様は跳んでやってきたのです。お腹にイエス様を抱

えながら。しかし、そのイエス様はまだ体に感じられるものではなかったはずですが。ガブリエルのお告げを受けた直後にマリア様は旅立っています。マリア様にとっても、エリザベトにとっても、イエスが本当に宿っているのか体感としてはわからなかったと思います。しかし、彼女らは大きな喜びの中で互いに挨拶を交わし、聖霊に満たされたのです。

いずれにしても、彼女らは「見ないで信じた」のです。信仰とは五感ではありません。イエスを見ても信じない人は信じませんでした。信仰は神の約束に対するフィアット（お言葉通りにこの身になりますように）なのです。神の約束とは、神様が私たちを愛して、共にいたいと思ってくださり、共に歩み、救いと平和に導きたいと望んでおられるということです。これが聖霊の約束であり、神のみむねです。インマヌエル。これを「お言葉通りにこの身になりますように」と受け入れて信じる事、それが信仰だと思います。

信じることによって何がもたらされるのでしょうか。それは「希望、愛と喜び」です。マリア様は100 km以上の道のりをものともせずに行ってきました。それは希望の力によるものです。希望がなければそんな道のりを歩くのは無理です。エリザベトにも希望が与えられました。年齢をとっても頑張ろうという力が彼女から感じられます。そして、愛。マリア様は三ヶ月もエリザベトのところに留まりました。おそらく出産まで立ち合ったでしょう。惜しみなく自分を与えるマリア様。それは、信仰の喜びからくる具体的な行動です。また、二人とも喜びがあふれています。

神を信じる者は何があっても前向きです。神様がいるのだから大丈夫。これがいつも心の土台にあるから喜びもあるのです。

神様は皆さまの事を見失うことがないと認識して、マリア様とエリザベトのイキイキとした信仰の模範にならい、清い心で、暖かい信仰によって前向きにイエス様の御降誕を祝いに行きましょう。  
FELIZ NAVIDAD

2023年12月 祈りのうちに

カトリック上野毛教会 主任司祭  
ペトルス・ウィリー・ツバ・ドイ O.C.D.